

第2回泉佐野丘陵緑地運営会議設立準備会

大阪府では、泉佐野市丘陵緑地の公園整備について、各界専門家からなる運営会議設立準備会を設置し、府民の皆様にご理解、利用していただける公園運営計画案の策定に努めてまいります。

この度、第2回の会議を開催いたしました。その概要については下記のとおりです。

会議の概要

- ・日時:2008年2月6日(水)10:00~12:00
- ・場所:ホテルプリムローズ大阪 3F(高砂西)
- ・出席委員(敬称省略)
 - 大阪府立大学生命環境科学部緑地環境科学科教授 増田 昇(委員長)
 - 大阪市立大学環境都市工学科准教授 嘉名 光市
 - 大阪府立大学生命環境科学部緑地環境科学科准教授 下村 泰彦
 - NPO 法人プラス・アーツ代表 永田 宏和
 - 大阪ガス エネルギー・文化研究所研究員 弘本 由香里
 - 泉佐野観光ボランティア協会会長 吉野 勝
 - 大阪府大阪府立女性総合センター館長 清野 博子
 - 泉佐野市都市整備部長 松下 義彦(代理出席)

審議の概要

運営会議設立準備会の役割や計画地のテーマ・理念・方針の確認後、以下の議題について検討を行った。

議題1「運営会議の役割、メンバー構成の検討」

- ・運営会議の役割や構成メンバーなどについて、事務局から説明後、検討を行った。

議題2「パーククラブの役割、養成講座のカリキュラムの検討」

- ・パーククラブの役割やパーククラブ養成講座のカリキュラム、他の公園におけるマネジメント事例や活動プログラム事例などについて、事務局から説明後、検討を行った。

各委員の主な意見、質疑

- ・運営会議・パーククラブの役割やパーククラブの育成の仕方を検討する上において、運営会議やパーククラブが将来的には指定管理者の一翼を担うという方向性を考慮しておくべき。
- ・平成18年度の土地利用検討委員会、建設事業評価委員会、公園基本計画検討委員会などで議論された内容も書き込むようにしておくべき。また、現在のテーマでは説明しないと分からない部分がある。府民の理解と共感を得るために、計画地の歴史性や理念などを踏まえた表現にするべき。
- ・この公園は、都市の再生に貢献する公園でもある。公園から街への視点だけでなく、都市再生の手段としてもみるべき。都市、地域を再生していく上で、都市公園が社会から要請されている要素がたくさんある。
- ・現在、改訂中の大阪府広域緑地計画を踏まえてすすめていくべき。広域緑地計画と本計画とは別にあるので

はなく、つながっている。広域緑地計画において、公園の価値は「存在効果」「利用効果」「媒体効果」がある。本公園が整備されることによって、地域の交流、活性化や環境学習、福祉など媒体効果の発揮に寄与するということを表現しておくべき。

- ・新しい枠組みとして、計画地では開設前の整備段階から、府民が参画して活動を展開していく。また、計画地をフルメイド、ハーフメイド、ハンドメイドと区域を分けている。行政がつくるフルメイド区域は早期オープンするとともに、段階的な開園を行っていくべき。また、それぞれの区域の役割を特徴づけていくことが必要。
- ・パーククラブ養成講座のカリキュラムは、公園運営の担い手を育てるような内容ではなく、府民が楽しめるイベントなどを数多く実施し、まず公園のファンをつくるべき。公園のファンの中から、公園運営の担い手側で活動する人が生まれてくる。

委員長のまとめ

- ・今回の議論で運営会議、パーククラブのあり方などが明確になった。事務局側で今回の議論を整理し、さらに議論を深めていくことが必要である。
- ・計画地のテーマなどを府民にわかりやすい表現にするべく、次回は、事務局から案をだして議論を深めていく。併せて、フルメイド、ハーフメイド、ハンドメイドのそれぞれの区域の特徴を明確にして、府民にわかりやすく伝えていくことが必要である。